

巻 頭 言



埼玉県知事 大野 元裕

世界のSAITAMAプロジェクト

はじめに、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた世界中の皆様にお悔やみ申し上げます。また、罹患され療養中の皆様にご心からお見舞い申し上げます。そして、今この時も、社会を支えるべく現場で奮闘されておられる医療従事者をはじめとしたエッセンシャルワーカーの皆様にご改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染症対策を推進するためには、グローバル社会の中で、各国がしっかり協調しながら、ウイルス対策や経済政策などをそれぞれ効果的に打ち出していく必要があります。このような困難な時期にこそ、世界とつながり、協働する必要性を強く感じております。

今から1年前、私は「世界のSAITAMAプロジェクト」を公約に掲げ知事に就任しました。埼玉県には、現在19万人を超える外国人が暮らしています。埼玉県が今後も活力を維持していくためには、外国人住民にさらに活躍していただくことが必要です。

「世界のSAITAMAプロジェクト」では、大きな柱の一つとして外国人との共生社会の実現を目指しています。外国人が地域において能力を十分に発揮するためには、日本語でコミュニケーションをとれることが重要です。海外で長年暮らした経験に鑑みれば、語学の能力は、相手の文化や社会への理解に比例します。県内に約200ある日本語教室は、多くの外国人にとって言語を学ぶだけでなく、日本の慣習に触れたり、地域のコミュニティへ仲間入りをするきっかけを提供する場でもあります。県では、こうした日本語教室の運営基盤を強化するため、今年度から、日本語教材の配布や、日本語を教えるスタッフ向けの研修の実施などの支援を進めていきます。

もう一つの柱として、埼玉県から世界を舞台に活躍できる人材の育成も充実させていきます。既に2,000人を超える規模の留学生を海外に送り出した「埼玉発世界行き」奨学金による支援を継続するとともに、新たに子どもや若者が身近に異文化を体験する機会を作ります。具体的には、外国人留学生が放課後子供教室などで小学生に母国の遊びを教えたり、中学生や高校生が日本語教室にボランティアとして参加し、地域の外国人と交流したりする取組を実施します。

普段の生活から一歩踏み出し、異文化を受け入れる心を育むことが、世界に向かって羽ばたくきっかけになると考えています。

私は、埼玉県を外国人を含めた県民誰もが暮らしやすく魅力にあふれた地域とするため、このプロジェクトを全力で進めてまいります。